

ALPS
REPORT第80期 第3四半期報告書
アルプス電気株式会社 2013年3月8日発行

No. 150



■ 会社の概要

(2013年2月28日現在)

社名
英文社名
本社
設立
資本金
発行済株式総数

アルプス電気株式会社
ALPS ELECTRIC CO., LTD.
〒145-8501
東京都大田区雪谷大塚町1番7号
TEL. (03) 3726-1211(大代表)
(03) 5499-8026 (IR部門直通)

■ 株主メモ

事業年度
基準日

毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日
期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
その他あらかじめ公告して定めた日

定時株主総会
公告掲載

毎年6月下旬
電子公告により、当社ホームページ
(<http://www.alps.com/j/ir/index.html>)に
掲載します。なお、やむを得ない事由により、
電子公告ができない場合は、日本経済新聞に
掲載します。

上場証券取引所
1単元の株式数

東京(第一部) 証券コード 6770
100株

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
ホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

三菱UFJ信託銀行証券代行部

検索

【ご注意】

- 住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ

☎ 0120-232-711

(受付時間：土・日・祝祭日を除く平日9:00～17:00)

住所変更等諸届用紙ご請求 ☎ 0120-244-479 (24時間受付)

皆様へ

Top Message



代表取締役社長

栗山年弘

朝夕の寒さも和らぎはじめ、春の訪れが感じられる季節となりましたが、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2012年の世界経済は、欧州で政府債務危機を背景とする金融不安が再燃してマイナス成長となり、米国では、期限切れを迎える大幅減税と、国の債務の上限問題から成る、いわゆる「財政の崖」によって先行きが懸念されるなど、大きな下振れリスクが絶えない状況が続きました。また、中国をはじめとする新興国にも欧州経済の減速が波及し、経済成長率が低下しました。

日本経済におきましても、2011年3月に生じた東日本大震災による落ち込みから、2012年夏場にかけて回復に向かいましたが、海外景気が減速するなかで大幅な輸出の減少や、予想を上回る円高により、年央から景気は下向きとなりました。以降、世界的な先行き不透明感が依然として続いております。

当エレクトロニクス業界におきましては、このような世界景気の減速に加え、新興国メーカーの台頭や需要先食いによる各社テレビ事業の悪化は、企業経営に深刻な打撃を与えました。また、スマートフォンが大きく伸びる一方で、パソコンやゲーム、デジタルカメラ、オーディオ、さらにはナビゲーションの市場を侵食したこともあり、デジタル民生機器向け電子部品が伸び悩みました。

この結果、当第3四半期の業績につきましては、売上・利益ともに期初に立てた予想を下回る結果となりました。昨今、2012年に比べて若干の円安傾向ではある

ものの、民生市場全体では今後も厳しい状況が続くと予想されることから、業績予想の下方修正を行いました。

また、第3四半期の決算発表と同時に、今後の収益改善施策も発表しました。当社事業の良質化を目的として、今年度中に不採算製品の整理・縮小および過剰生産能力の削減を実施します。また、車載市場向け製品の拡大やスマートフォン関連製品の強化、さらにセンサビジネスの拡大やグローバル生産・開発拠点の拡充などの施策を行い、経営構造改革および生産革新を一層加速させ、確実に成果へと結びつけてまいります。

3月で終了する当期の業績は、当初予想した利益を達成することが難しい見通しであることから、株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、期末の配当は見送らせていただきたいと考えております。

電子産業は現在、業界の勢力図や産業構造が大きな変革を迎えて、まさに転換期にあります。厳しさが依然として続くなか、会社一丸となってより一層の危機意識と緊張感を持ち、売上と利益の向上に努力していく所存です。

皆様には、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年3月

良好な操作フィーリングと優れた堅牢性を両立

車載向け多機能操作デバイス



快適なカーライフに必須のカーナビゲーション。年々多機能化が進む一方、ボタンやダイヤルが増え、操作が煩雑になっています。また、視認性の向上やTVの快適な視聴などのため、ディスプレイの大型化が進み、ダッシュ

ボード上に設置する製品も出始めてきました。これらのカーナビ製品に対応するために、ナビの操作には安全性の観点から手元での確実な操作性が求められています。当社では、この操作性の問題を解決するため、複数操作を一つのデバイスで可能とする多機能操作デバイスを開発しました。安全操作と同時に好フィーリングと堅牢性を両立させたのは、業界初と評価されています。

操作の多機能化は8方向及びセンタープッシュを行うスティックコントローラと回転操作を行うエンコーダを組み合わせることで実現。また、独自の機構設計技術により重厚かつ滑らかな操作フィーリングと、最適な軸の太さを用いて車載機器に必要な堅牢性も両立しています。加えて、センタープッシュ操作部にLEDを内蔵し、照明による気品に満ちた車室内イメージの創造に貢献します。

【主な用途】 ◎カーナビゲーション、カーオーディオ、カーエアコンなどの操作

独自技術で世界最先端の薄型化を実現

F2タイプ静電容量式タッチパネル



タッチパネルは、スマートフォンやタブレット型端末などのモバイル機器、携帯ゲーム機、タッチ操作が可能な最新のパソコンなど、多くのデジタル機器に普及し、私たちの日常生活に不可欠なものとなりました。

このようななか、モバイル機器向けのタッチパネルには、大画面化や高精細化とともに、一層の薄型化及び軽量化が求められています。

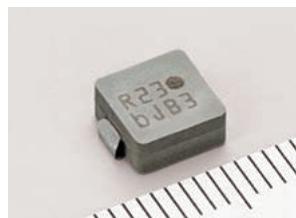
当社は、成長著しいスマートフォン市場を中心に、多くのタッチパネルの納入実績があり、今後の更なる売上拡大を図るべく、従来の静電容量方式と比べ半分以下の薄型化を実現したF2タイプタッチパネルを開発、量産を開始しました。

本製品は、独自の配線技術を開発したことで、従来2枚必要だった透明電極フィルムを1枚にし、業界最先端の薄さを実現。ガラス、プラスチック基板双方に対応可能であり、平面のみならず、3次元形状や加飾などのさまざまなニーズに応えています。

【主な用途】 ◎スマートフォンやタブレット型端末などのモバイル機器

長時間駆動のパソコンに最適な高効率パワーインダクタ

リカロイ™パワーインダクタ



薄型ノートパソコンやタブレット型端末には、軽量、高機能化に加え、長時間駆動が求められています。そのため、CPUや各種デバイス、そして電圧変換、電源供給するDC/DCコンバータにも消費電力低減が求められて

おり、そこに搭載されるパワーインダクタには、高効率化が必要となります。しかし、他社既存品はCPUの低負荷時(パソコンなどの待機モード時)での電力変換効率に課題がありました。

こうしたニーズを受け、当社子会社のアルプス・グリーンデバイス(株)は、リカロイ™パワーインダクタシリーズに新製品を追加。独自磁性材料である「リカロイ™」をコア材に使用し、電力変換に伴う損失を低減させ、特に低負荷時での高効率を実現しました。また、薄いコイル線材に高精度な鍛造加工を施すコイル・端子一体構造を採用することで、高負荷時での発熱を抑制し、既存品と比べ大電流対応が可能となりました。

これまで市場で高い評価を受けているパワーインダクタシリーズに本製品をラインアップすることで、更に多様な市場ニーズに応えています。なお、本製品の販売は、アルプス電気が担います。

【主な用途】 ◎ノートパソコン、タブレット型端末、サーバーなどのDC/DCコンバータ

CLOSE
UP

注目分野への取り組みのご紹介

環境・エネルギー関連市場向け製品

地球環境保全ニーズの高まりや昨今の電力事情を背景にして、電力利用の省エネ化や高効率化が一層求められており、「環境・エネルギー関連市場」は今後、更に拡大するとみられています。当社のこの新たな市場開拓への取り組みをご紹介します。

Q1

どのような製品が使われていますか？

A1

ノートパソコンなどの長時間駆動に貢献できる高効率DC/DCコンバータ^{*1}向けリカロイ™パワーインダクタや、エアコンなどに取り付けて効率的な室内空調管理などを可能とする湿度センサなど、当社製品を単体で使用するケースもありますが、長年培った接点・プロセス・高周波などの技術をベースに、センサなどのデバイスに通信機能を組み合わせた複合モジュール化を進めています。

例えば、電力使用状況などが把握できるxEMS（エネルギーマネジメントシステム）用電流センサに、ワイヤレスLANモジュールを組み合わせ、電力消費量などの情報を通信で飛ばし、機器コントロールの役割を担っています。



Q2

会社の取り組みを教えてください。

A2

2010年5月、環境対応製品の開発・製造・販売を目的とするアルプス・グリーンデバイス(株)を設立しました。また、昨年4月、アルプス電気が組織改革を実施した際、技術本部内にエネルギー関連市場に特化したプロジェクトチームを設置しました。この部門には、開発機能とマーケティング機能を持たせ、市場や顧客ニーズに素早くアクションがとれるように対応しています。

リカロイ™
パワーインダクタエネルギーマネジメント用
電流センサワイヤレス
LANモジュール

Q3

各製品の特色や、今後の展望について教えてください。

A3

磁性材料「リカロイ™」は、粉末化が容易で、高温下での安定性に優れるなどの特色があり、電気自動車やハイブリッド車向けのコンバータ用リアクトル^{*2}など、小型・高効率電力変換デバイスへの応用が考えられています。また、長年培った薄膜プロセス技術や磁性材料技術を生かした電流センサは、小電流から大電流まで対応可能で、スマートメータ^{*3}への組み込みを検討しています。更に、蓄電池ユニットへの内蔵が検討されるなど、さまざまな用途での活用が期待されています。

用語解説

※1 DC/DCコンバータ

直流（DC）電流の電圧を上げたり下げたりする電力回路のこと。

※2 リアクトル

バッテリーとインバータの間に位置する昇圧コンバータ（電圧を上げる回路）内の基幹部品のこと。この部品に電流を流すことでエネルギーの蓄積・放出を交互に行い電圧を変換する。電気自動車やハイブリッド車のモータの高出力化に不可欠。

※3 スマートメータ

従来のアナログ式誘導型電力量計と異なり、電力をデジタルで計測し、メータ内に通信機能を持たせた次世代電力量計のこと。

2012年

- 11月 ● メキシコ拠点アルコム・エレクトロニクスが設立20周年
- アルプス・ヨーロッパ、ドイツでの「エレクトロニカ2012」出展
- 涌谷工場及び同工場所属の当社社員、職業能力開発協会よりそれぞれ表彰
- 12月 ● 多機能操作デバイス「RKJXW2シリーズ」を発表
- 中国国内における「カード用コネクタ装置」の当社特許に関する訴訟で、当社勝訴

2013年

- 1月 ● お取引先様との新年懇談会を開催
- 2012年度第3四半期決算発表

(注)下線のトピックスを以下に詳しくご報告しています。

■メキシコ拠点アルコム・エレクトロニクスが設立20周年

当社とアルパインの合併会社であるメキシコ・レイノサ市の製造拠点アルコム・エレクトロニクスが、昨年2月に創立20周年を迎え、同11月に記念式典を開催いたしました。

アルパインの製造拠点として設立された同社は、操業当初から当社車載向け製品の委託加工を担当。1995年には、北米での車載電装事業の拡大を受け当社も資本参加しました。以来「アルプス一つ」の考え方のもと、当社、アルパインそして、近隣に拠点を構えたアルプス物流の3社が一体となり、事業運営を続けています。同社ではこの20周年を機に、より一層の連携を図り、アルプスグループの車載電装製品を担う生産拠点として、事業拡大に貢献していきます。

■2012年度第3四半期決算発表

当社は本年1月31日の第3四半期決算発表に合わせて、電子部品事業セグメントの収益力回復及び強化を目的とする収益改善施策を発表しました。その概要についてお知らせします。

1. ねらい

- 1) 収益力の回復を目的とする事業内容の良質化
- 2) 売上と利益の拡大に向けた事業体制の強化

2. 各種施策について

1) 事業の良質化

今後、電子部品事業の良質化を図るため、以下の施策を実施します。

- ① 民生その他市場向けビジネスにおける不採算製品群の整理・縮小
- ② 生産規模に見合った過剰生産能力の削減

2) 事業体制の強化

売上と利益の拡大に向けた活動を進めるため、事業体制の強化を図ります。

- ① 堅調に推移する車載市場向け製品の拡大
- ② 需要増が見込めるスマートフォン関連製品の強化
- ③ センサ・ICモジュール製品や各種センサの半導体メーカーへの拡販
- ④ 顧客密着型によるスピーディーな製品開発と生産のためのグローバル生産・開発拠点の拡充
- ⑤ グローバル全体での人員削減

連結業績の概況 2012年4月1日から2012年12月31日まで

当第3四半期連結累計期間の当社グループにおける連結業績は、売上高4,011億円(前年同期比3.2%増)、営業利益54億円(前年同期比53.8%減)、経常利益51億円

(前年同期比48.8%減)、四半期純損失は39億円(前年同期における純利益は8億円)となりました。

売上高



1株当たり四半期純損益



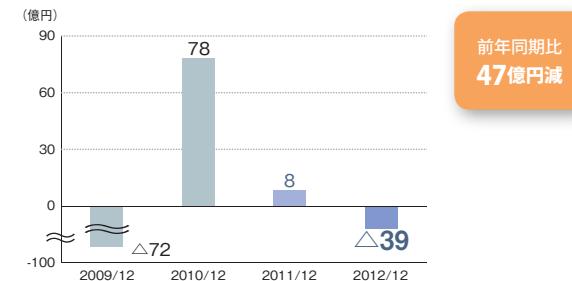
営業損益・営業損益率



総資産



四半期純損益



純資産・自己資本比率



(注) 単位は億円未満切り捨て。よって、グラフ中の数値に差異が生じる場合があります。

電子部品事業

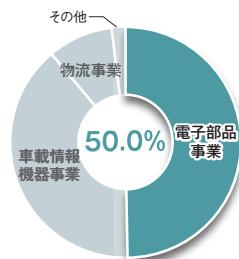


安定的な成長が見込まれる当社車載市場向け製品群

●売上高



●売上高構成比

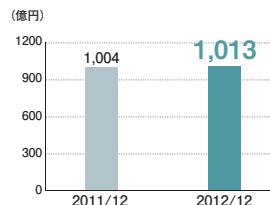


当エレクトロニクス業界においては、世界景気の減速に加え、新興国メーカーの台頭などが影響し、デジタル民生機器向け電子部品が伸び悩みました。直近は円高是正の傾向ではあるものの、当第3四半期連結累計期間の業績については、売上・利益ともに予想を下回りました。

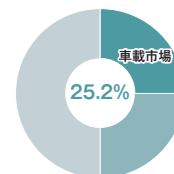
この結果、当事業の売上高は2,006億円(前年同期比0.8%減)、営業損失は0億円(前年同期における営業利益は32億円)となりました。

■車載市場

●売上高



●売上高構成比

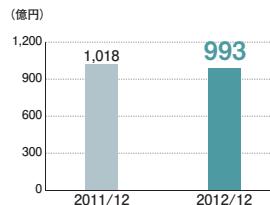


車載市場においては、当社のグローバル生産・販売ネットワークを生かし、概ね順調に期初の計画通りに推移しました。自動車の電子化が、今後も大きく進展する見通しであり、センサや高周波部品をはじめとする独自製品の開発に注力し、自動車メーカー各社に対して技術的イノベーションを提案し続け、積極的に拡販していきます。

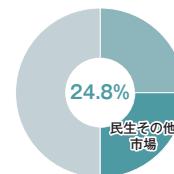
当第3四半期連結累計期間における当市場の売上高は1,013億円(前年同期比0.9%増)となりました。

■民生その他市場

●売上高



●売上高構成比



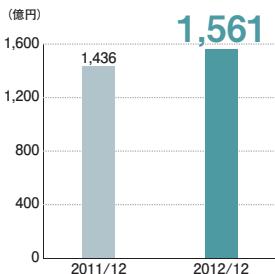
民生その他市場においては、スマートフォン向けのコンポーネント製品について、新規顧客開拓を推進しましたが、円高や顧客の計画変動などの影響を受け、売上高・利益ともに前年同期実績を下回る結果となりました。今後、スマートフォン市場の成長を的確に捉えた拡販活動の推進と、節電・省エネ市場の拡大に伴う新製品の投入を積極的に行っていきます。

当第3四半期連結累計期間における当市場向けの売上高は993億円(前年同期比2.5%減)となりました。

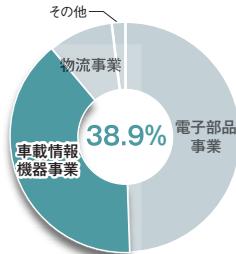
(注)従来の「AUTO事業本部」及び「HM&I事業本部」は、それぞれ「車載市場」及び「民生その他市場」に表記を変更しています。

車載情報機器事業(アルパイン株式会社)

●売上高



●売上高構成比



車載情報機器事業(アルパイン(株)・東証一部)では、主要取引先自動車メーカーの生産・販売の回復や北米市場での自動車販売が好調に推移したため、自動車メーカー向け売上が伸長しました。円高の緩和傾向はあるものの、依然、高水準を維持する為替影響や日・米・欧の市販市場での販売競争が激化したことに加え、自動車メーカー向け純正品の売上構成の変化や車載用ディスプレイなど部材コストの高止まりが収益を圧迫し、厳しい状況で推移しました。この結果、当事業の売上高は1,561億円(前年同期比8.7%増)、営業利益は17億円(前年同期比61.9%減)となりました。

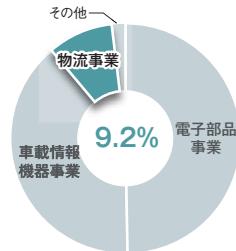
(注)事業名称変更に伴い、従来の「音響製品事業」から「車載情報機器事業」に表記を変更しています。

物流事業(株式会社アルプス物流)

●売上高



●売上高構成比



物流事業((株)アルプス物流・東証二部)では、新規・深耕拡販を図るとともに、運送・保管・輸出入各事業の生産性向上や「絶対品質」の追求など、事業体質の強化にも取り組みました。また、韓国での物流機能の強化、タイで第4の拠点開設など、グローバルに拠点及びネットワークの拡充を進め、取扱貨物量の拡大に努めました。この結果、当事業の売上高は369億円(前年同期比2.8%増)、営業利益は30億円(前年同期比5.4%増)となりました。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:億円)	第79期 連結会計期末 ('12.3.31)	第80期 第3四半期会計期末 ('12.12.31)
資産の部		
流動資産	2,757	2,620
A 固定資産	1,663	1,757
有形固定資産	1,209	1,310
無形固定資産	93	114
投資その他の資産	359	333
資産合計	4,420	4,378
負債の部		
流動負債	2,063	1,663
B 固定負債	426	796
負債合計	2,489	2,460
純資産の部		
株主資本	1,360	1,294
その他の包括利益累計額	△206	△168
少数株主持分	777	791
純資産合計	1,931	1,917
負債純資産合計	4,420	4,378

A 固定資産

固定資産は、機械装置及び運搬具、ソフトウェア取得等に伴う無形固定資産の増加と、前払年金費用、建設仮勘定の減少等により、前連結会計年度末と比べ94億円増加の1,757億円となりました。

B 固定負債

固定負債は、長期借入金の増加等により、前連結会計年度末と比べ370億円増加の796億円となりました。

連結財務諸表(要約)

連結損益計算書

(単位:億円)	第79期 第3四半期 ('11.4.1~ '11.12.31)	第80期 第3四半期 ('12.4.1~ '12.12.31)	前年同期比 増減
売上高	3,889	4,011	122
売上原価	3,187	3,356	168
売上総利益	701	655	△45
A 販売費及び一般管理費	584	601	17
営業利益	117	54	△63
営業外収益	17	15	△1
営業外費用	34	18	△16
経常利益	100	51	△48
特別利益	17	25	7
特別損失	17	8	△8
税金等調整前四半期純利益	100	68	△32
法人税、住民税及び事業税	41	50	8
法人税等調整額	30	44	14
少数株主利益	20	12	△7
四半期純損失(△)	8	△39	△47

包括利益計算書

(単位:億円)	第79期 第3四半期 ('11.4.1~ '11.12.31)	第80期 第3四半期 ('12.4.1~ '12.12.31)	前年同期比 増減
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	28	△26	△55
その他の包括利益合計	△83	48	131
四半期包括利益	△55	21	76

A 販売費及び一般管理費

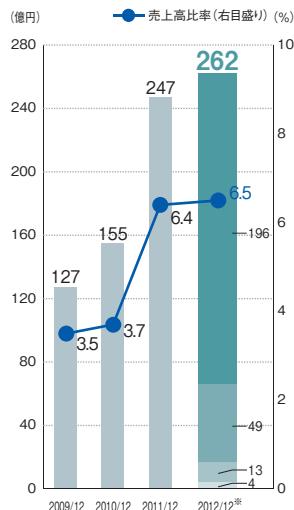
601億円を計上しました。今後の当社ビジネスの強化につなげるための研究開発費の増加等により、前年同期比17億円増加しました。

(注)単位は億円未満切り捨て。よって、表中の数値に差異が生じる場合があります。

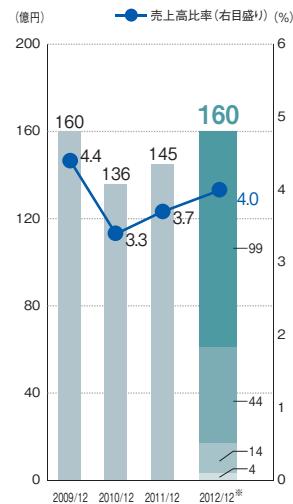
設備投資・研究開発・減価償却・たな卸資産の推移

● 電子部品 ● 車載情報機器 ● 物流 ● その他

設備投資額



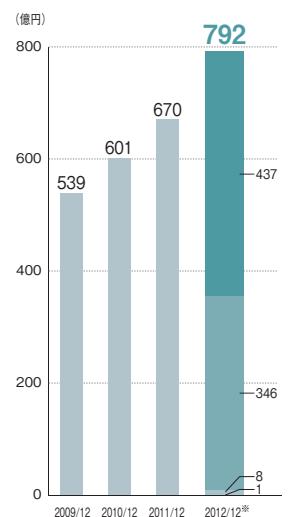
減価償却費



研究開発費



たな卸資産



*内訳には連結消去を含んでおりません。

株主Q&A

株主の皆様から
頂いたご質問にお答えします。

Q アルプス電気環境問題への取り組みや 考え方の事例を教えてください。

A 当社は「宇宙船地球号」の一員として、事業活動とバランスのとれた環境調和型の経営を進めています。「美しい電子部品を究める」ことを通じ、Green(環境にやさしい)を掲げ、低炭素社会を実現すべく、エネルギー効率の高い、省電力化に寄与する「グリーンデバイス」を供給しています。また、生産工程での省エネ化、廃棄物削減や再資源化などに、積極的に取り組んでいます。更に、社員とその家族に対して、環境への意識を高めてもらうために、環境家計簿の参加呼び掛けや、簡易電力測定器の配布なども行っています。

Q アルプスレポート149号から「森の町内会」と いうマークが入っていますが、これは何ですか？

A 「森の町内会」とは、環境NPOオフィス町内会が運営する間伐を促進し、健全な森づくりに貢献する活動のことです。この活動に賛同する企業・団体は、印刷用紙に「間伐に寄与する紙」を使用します。「間伐に寄与する紙」は、従来の印刷用紙代に間伐促進費用相当額が加算されています。太陽光が十分に入る健全な森林は、地球温暖化と土砂災害を防止し、生物多様性の保全などにも貢献します。当社は生物多様性保全活動に対する取り組みの一つとして2012年度から使用を開始して森林資源の保護に努めています。

株式情報

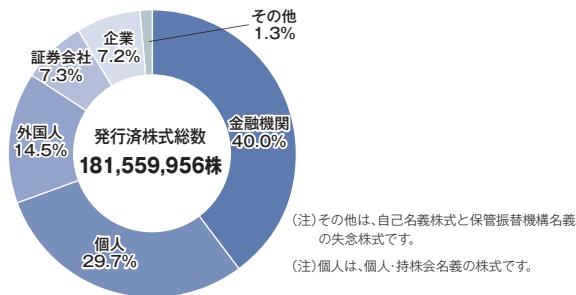
■ 株式状況

会社が発行する株式の総数 発行済株式総数
500,000,000 株 181,559,956 株

■ 大株主の状況(2012年9月30日現在)

株主名	株式数	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,250,300	8.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,149,600	8.34
全国共済農業協同組合連合会	7,400,000	4.08
株式会社東芝	4,075,200	2.24
JPモルガン証券株式会社	3,693,300	2.03

■ 所有者別分布状況(2012年9月30日現在)



IR情報Webサイトのご案内

IR情報

直近の財務諸表からよく頂くご質問まで、分かりやすいメニュー構成で必要な情報入手できます。2013年の主なIR活動のカレンダーも掲載しておりますのでご確認ください。



IRニュース

当社株式に関連する新しいニュースが掲載されているコーナーです。

<http://www.alps.com/j/ir/index.html>

表紙の
写真から

鹿島槍ヶ岳。北アルプスの北部、後立山連峰の中央に位置する。南峰(2,889m)と北峰(2,842m)からなる双耳峰が、見る者を魅了する。